

すみれ通信 60号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています



〒 251-0032
藤沢市片瀬339-1
藤沢市医師会館
在宅医療支援センター
☎ 0466-41-9980
Fax 0466-41-9981
メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp



コロナウイルスによる緊急事態宣言解除

4月7日に出された緊急事態宣言が5月25日に解除されました。新たな生活様式が求められ、人との距離を置く、対面を避ける、テレワークなど医療介護の現場では難しい事だらけです。でも、こんな時だからこそ、笑顔で明るく乗り切りましょう。

笑顔でハツラツ生活

どんな活動でもまず笑顔であいさつ感謝や前向きな言葉を口に出そう言葉にするうちに笑顔もついてくる。



笑うことは人間関係を円滑にするだけでなく、健康にも良いようです。65歳以上の人で笑う頻度がほとんどない人は笑う人に比べ、認知機能が低下するリスクが2倍以上高かったそうです。

(福島医科大学大平哲也教授)

「何で笑ったか」には健康効果に大きな違いがないとのこと。人との会話でもテレビを見てもいいし、よく笑う人の近くにいる、つられ笑いでも良いみたいです。免疫力も高まります。



小児在宅の現状



杉本医院 杉本道代

藤沢市小児科医会で、在宅をやる開業医の希望をお受けして、9年になろうとしています。藤沢市民病院の主治医と地域医療連携室の看護師・病棟看護師さん、2箇所の訪問看護ステーションの看護師さん、地域の保健師さん、計7名ぐらいのミーティングを数回行い、藤沢市初の人工呼吸器での在宅が始まりました。その患児が10歳になりました。

9年の間、藤沢市民病院、在宅医療支援センター、訪問看護ステーション、神奈川県立こども医療センター等からお話があり、延べ6名の在宅診療に携わりました。

外来診療の傍らの在宅医療なので、多くは担当できない状態です。数年前から小児在宅を手がける先生が増えていると聞いていますが、まだまだ少ないようです。原因のひとつは24時間連絡が出来るようにする必要があります。さらに、成人や高齢者より入院率が高く在宅収入が「0」になってしまう事もあるからです。

今回の新型感染症で、各ご家庭の考え方もまちまちで勉強になりました。待機的なオペは延期となり、病院で感染しないか不安を抱えながら、患児に必要な物品を受け取りに行かなくてはいけない状況を(今現在、医薬品の宅配ルートが皆無) どうにか出来ないか困っています。

本人なりに成長している患児は、レスパイトにも問題が出現しています。血液、糖尿病、腎臓病など慢性疾患では20歳を超えても通院や入院を問題なくでき、内科への引継ぎもできますが、在宅児の15歳以上のレスパイトはできないと解り、呆然としています。引継ぎ先の提案もないまま、患児の家族に探すように話していたようで、近い将来レスパイト難民が出てしまいます。

家族が遠方の病院を探し始めています。自分の無力さにとても恥ずかしくなりました。さらに届け出の書類がとても大変なようで時間がかかります。8月で12歳になる患児は同じケースのレスパイトでも病院によって請求される金額が違い、明細が理解できないと話していました。レスパイトの受け入れ先が見つからないと、当初のチームとしての在宅診療はできません。家族の負担を軽減するシステムの安定供給が藤沢市医療の課題ではないかと考えます。

家族に寝たきりのお子さんをお持ちの親同士が福祉施設で会って、愚痴を言って終わりにするのではなく、市や県や国が15歳からのレスパイト受け入れ先を作っていただけることを期待しています。

